

維新史 回廊だより

第12号
平成21年
(2009年)
10月発行
(年2回発行)

編集 維新史回廊構想推進協議会
発行 山口県環境生活部文化振興課(山口市滝町一〇八三一九三三一二六二七)

◇はじめに◇

「維新史回廊だより」をご愛読いただきありがとうございます。

山口市の山口県立山口博物館において、平成二十二年十二月十六日(水)から平成二十二年五月九日(日)までの会期で「山口博物館維新資料コレクション展」が開催されます。

今回の「維新史回廊だより」は、県立山口博物館の維新関係資料の収集・展示の足跡をたどりながら、「コレクション展」の展示資料の一部を紹介致します。

解説は、県立山口博物館の伊原慎太郎主任です。

◇維新資料収蔵施設をたずねて(山口県立山口博物館)◇

○山口博物館はいつ頃できたのですか。



写真1 山口県立教育博物館本館(右)と維新記念室(左)

山口県立山口博物館の現在の建物は、昭和四十二年(一九六七)に建てられたものですが、博物館としての歴史は古く、明治四十五年(一九一二)に発足した山口県教育会附設の防長教育博物館に始まります。

防長教育博物館は、「防長の維新史料及び内外の教育品、教育参考品、教育図書等を蒐集陳列して教育の普及発達に資する」(防長教育博物館規則第一条)ことを目的に設置され、陳列物品とし

て、第一に維新史料、第二に防長先輩の遺物遺墨が挙げられていました。現在残っている記録によると、大正三年(一九一四)四月までに、七五四八八の資料が展示され、このうち、勤王諸士の遺物遺墨肖像を中心とす

る維新資料は一六一点、写真伝記等防長先輩史蹟資料は四十七点が展示されたとあります。しかしながら、これらの資料の活用状況について示したものは見つかっていません。

当時、防長教育博物館に勤務していた近藤留蔵主事が、明治四十五年二月に発行された『防長教育』第四百七十七号の中で、「(前略)第一維新の源地たる防長の精神を罩めたる聖堂を設け、漸次維新の資料を蒐集するのみならず、之に関する先輩偉人の霊を祀り、之を以て館の精神とし(後略)」と述べていることから、この時期が、維新資料充実に向けた構想段階であつたことがわかります。

近藤主事のいう「防長の精神を罩めたる聖堂」は教育会時代には実現に至らなかつたものの、維新資料充実に向けた構想は、山口県に移管後も引き継がれていったのです。

大正六年(一九一七)に防長教育博物館が山口県教育会から山口県に移管されると、現在地に山口県立教育博物館が設置され、煉瓦造りの維新記念室が併設されました。(写真1)

この維新記念室の併設について、黒金泰義山口県知事は大正四年(一九一五)の臨時県会で、次のように述べています。

「(前略)山口県ハ維新ノ大業ニ率先シテ翼賛シ奉レル最モ光輝アル歴史ヲ有ス。殊ニ其ノ当時翼賛ノ任ニ当リシ諸先輩ハ現ニ元老トシテ存シ全国其ノ比ヲ見ス、鹿児島、高知或ハ熊本等大業ヲ翼賛シ奉レル諸藩ナキニアラサレト、就中防長二州ノ人士ガ最モ多ク力ヲ竭シタルニテ斯カル美シキ歴史ヲ有スルモノハ又他ニ之ヲ求ムルヲ得ス、(中略)此ノ歴史ハ独リ防長二州ノ歴史トシテ見ルヘキノミナラス、帝国ノ歴史トシテ尊重スヘキモノナリ、殊ニ子弟ノ教育精神上ニ及ホス影響ハ又甚大ナルモノアリ(後略)」

「『山口県会史』続編上、大正十三年三月」
ここには、維新の大業を防長二州が成し遂げたとする自負と、先賢の偉業を継承し、その精神を青年教育に反映しようとする意図が伺えます。

教育博物館もこの意図に沿って、「維新記念資料及教育参考品ヲ蒐集陳列シ公衆ノ観覧参考ニ供スル」(山口県立教育博物館規則第一条)を目的とし、開館時には維新記念資料二七七点を展示しました。(写真2)

昭和三年(一九二八)十二月には、東宮殿下行啓記念事業として防長先賢堂が完成しました。内部には祭壇が設けられ、新年に先賢祭を举行すると共に、先賢事績の講演会、先賢遺墨展示、精神修養を目的とする会合に使われました。

○資料収集に関して、第二次世界大戦の影響はあったのでしょうか。

昭和二十年(一九四五)になると、第二次世界大戦の戦況悪化により、四月二十一日をもって教育博物館は休館となり、委託資料の返却や一部資料の疎開が進められました。敗戦による戦争の終結後は、復興に向け科学の振興・科学教育の推進が重要視されたため、昭和二十一年(一九四六)四月に山口県立科学教育研究所が設置され、翌年に山口県立科学博物館と改称されます。これらの施設は教育博物館の建物を利用したので、従来の教育博物館と科学博物館が併置されていましたが、科学博物館の活動が重視される中、維新記念資料のような歴史関係資料の展示等が行われることはありませんでした。

ようやく昭和二十五年(一九五〇)になって、教育博物館と科学博物館を廃止・統合し、山口県立山口博物館として再出発することになり、「科学・産業・歴史・美術等に関する資料を収集陳列して観覧参考に供する」(旧山口県立山口博物館規則第一条(昭和二十五年山口県教育委員会規則第三号)施設として、歴史関係資料の展示等も再開されることとなったのです。しかし、維新記念資料に関しては委託資料が多く、返却したものが大半で、展示しようにも資料が少なくなっていました。昭和二十七年(一九五二)には防府市の旧長州藩主毛利家から資料の寄贈を受ける等、展示再開のため資料収集に苦心したようです。

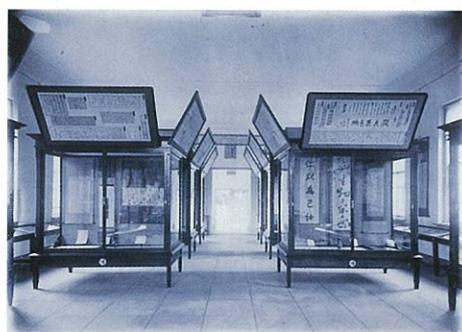


写真2 維新記念室展示風景

○現在の資料収集状況はどうなっていますか。

平成二十四年(二〇一二)に創立一〇周年を迎える山口博物館は、現在、天文・地学・植物・動物・考古・歴史・理工の7部門を有する総合博物館として多彩な活動を展開しており、これまでに約三〇万点にも及ぶ様々な資料を収集してきました。

歴史関係資料については、昭和二十七年頃、戦後混乱したままだった資料の整理と併せて分類替えが実施されたため、戦前以来の「維新記念資料」という分類はなくなりましたが、これ以降も、福本家資料・周布家資料・木戸家資料等、維新に関連する資料を数多く受け入れています。

現在も大筋でこの分類を踏襲しており、一貫して収集を続けてきた幕末維新期の関係資料は、約六〇〇点あります。

○幕末維新期の資料について、現在の展示状況を教えてください。

平成二十一年度は、歴史常設展示で、幕末維新期の資料を「木戸孝允」「周布政之助」「吉田松陰」「村田清風」と、人物を中心にして展示してきました。その最後として、十二月十六日から「山口博物館維新資料コレクション」を開催します。その展示資料から数点を紹介します。まず、最初は毛利敬親の肖像画です。



写真3 毛利敬親肖像画

幕末の長州藩主・毛利敬親(一八一九〜七一)については今更説明するまでもありませんが、天保八年(一八三七)に藩主となり、藩政改革・尊王攘夷運動・四境戦争・明治維新等の激動期を経て、明治二年(一八六九)、養子の元徳に家督を譲りました。

さて、敬親の肖像画で有名なものは、原田直次郎筆の油彩画で、これも当館所蔵ですが、今回はあえて別の肖像画を展示することとしました。油彩画は別の視点から、平成二十二年度に展示を予定しています。

今回展示する肖像画は、イタリアの画家・キオソーネの作品です。キオソーネは明治八年（一八七五）に来日し、紙幣の原版を製作しましたが、明治天皇や西郷隆盛などの肖像画を、コンテや版画で制作したことも知られています。構図は原田の油彩画と全く同じで、同じ写真をもとに描いたと思われます。（写真3）

次は、七卿落図です。

安政五年（一八五八）の日米修好通商条約締結後、尊王攘夷運動がさかんとなり、特に文久期（一八六一〜六三）に激化しました。長州藩はその中心的存在で、京都での政治活動が活発化しました。また、文久三年（一八六三）五月十日以降、関門海峡を通る外国船を砲撃しました。しかし同年八月十八日、会津藩・薩摩藩を中心とした公武合体派の政変がおこり、長州藩の関係者は京都を追われました。その際三条実美・三条西季知ら尊攘派の公家も、久坂玄瑞らとともに長州に下りました。その様子を描いたのがこの「七卿落図」です。この図は、尊攘運動や戊辰戦争で活躍した長三州の作品です。（写真4）



写真4 七卿落図

次は、長防臣民合議書です。

政変で京都を追われた長州藩は、翌元治元年（一八六四）七月に勢力回復を目指して京都に進撃し、敗れました（禁門の変、または蛤御門の変）。その結果長州藩は、朝廷に弓を引いたとして朝敵扱いされ、第一次長州征討が発令されました。一度は恭順の意を示した長州藩ですが、その後、高杉晋作らが政権を奪取し、幕府との対決姿勢を強めていきました。幕府は再度長州征討（第二次、山口県では「四境戦争」ともいう）を発令しましたが、結果は皆さん御存知のとおり、長州藩側の勝利に終わりました。この

「長防臣民合議書」は慶応二年（一八六六）三月、四境戦争を目前に、藩内に配布されたものです。長州藩はこれまで朝廷に忠節を尽くしてきたにもかかわらず、朝敵扱いされ、幕府から攻撃されようとしている今、藩内一致結束してことにあたろう、という内容です。最初に「長防二州臣民合議局活刷製本三十六万部有奇同腹同心之士各懐一部以備死生緩急蓋使天下万世知決死快戦臣子之分不可止也」とあり、覚悟の程が伺えます。もともとは冊子ですが、展示のため掛軸に表装されています。（写真5）

最後は、太政官高札です。



写真6 太政官高札

犯罪の禁止、徒党・強訴・逃散の禁止などを受け、明治六年（一八七三）によりやくすすべての高札が取り除かれました。（写真6）

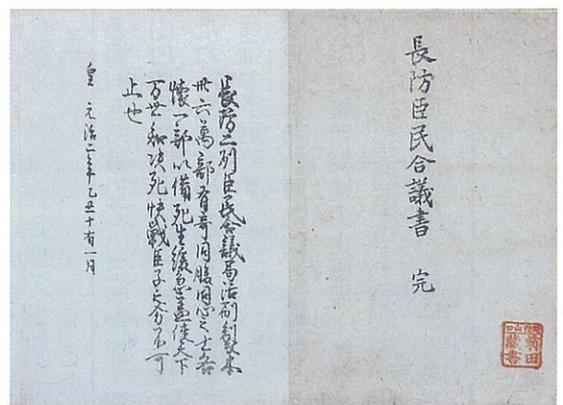


写真5 長防臣民合議書

慶応四年（一八六八）三月十四日、新政府は五箇条の誓文を公布し、新しい国策の基本を示しましたが、その翌日に全国で掲げられたもので、全国的な対民衆政策を示したもののひとつです。「切支丹宗門之儀は是迄御制禁之通堅く可相守事、邪宗門之儀は固く禁止候事」とあり、新政府が幕府のキリスト教禁止を、そのまま引き継いでいたことを示しています。その他、殺人・放火・窃盗等の

■歴史常設展示「山口博物館維新資料コレクション」

- ・会 期 平成二十一年十二月十六日(水)～平成二十二年五月九日(日)
- ・休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)
- ・観覧料 大人一五〇円 学生一〇〇円

*70才以上の方、18才以下の方及び高等学校、中等教育学校、特別支援学校等に在学する生徒は無料

詳しくは、山口県立山口博物館(山口市春日町八番二号 電話〇八三・九二二・〇二九四 <http://www.yamahaku.pref.yamaguchi.lg.jp>)までお問い合わせください。

◇企画展等情報◇

今年が吉田松陰没後一五〇年、伊藤博文没後一〇〇年に当たることから、県内各地の博物館・資料館で関係資料の展示が行われます。

▼毛利博物館(防府市多々良一丁目一五―一 電話〇八三五・二二・〇〇〇一)
テーマ展「吉田松陰と長州藩主毛利敬親」

(平成二十一年九月五日～十二月二十一日)

今年が吉田松陰の没後一五〇年に当たることから、毛利家に伝わる松陰関係資料とともに、毛利敬親教戒書など、松陰の才能を愛した長州藩主毛利敬親の関係資料を合わせて展示します。
観覧料は、大人七〇〇円、小中学生三五〇円です。

▼山口県文書館(山口市後河原一五〇―一 電話〇八三・九二四・二二一六)
吉田松陰没後一五〇年記念 吉田松陰自賛肖像展

(平成二十一年十月二十四日～十一月一日)

吉田松陰没後一五〇年を記念して、吉田松陰自賛肖像や絶筆を展示します。

詳しくは、山口県文書館のホームページ(<http://ymon.jo.yan21.jp>)をご覧ください。

観覧料は、無料です。

▼伊藤公資料館(光市大字東荷二二五〇―一 電話 〇八二〇・四八・一六二三)
伊藤博文公遺墨遺品展

(平成二十一年九月二日～十一月二十九日)

初代内閣総理大臣伊藤博文公没後一〇〇年を記念して、屏風や書軸など、伊藤公ゆかりの遺墨や遺品等を公開します。

詳しくは、伊藤公資料館のホームページ (www.city.hikari.yamaguchi.jp/kyouiku/bunka/ito-museum.html) をご覧ください。

観覧料は、大人四二〇円、高校・大学生三二〇円、小・中学生二二〇円です。

▼萩博物館(萩市大字堀内三五五 電話 〇八三八・二五・六四四七)
没後一〇〇年記念 伊藤博文とその時代

(平成二十一年九月十二日～十一月十八日)

日本の近代国家建設をめざし、憲法制定や国会開設などに尽くした初代総理大臣伊藤博文の軌跡をたどります。

詳しくは、萩博物館ホームページ (<http://www.city.hagi.lg.jp/hagihaku>) をご覧ください。

観覧料は、大人五〇〇円、高校・大学生三〇〇円、小・中学生一〇〇円です。

〔あしがき〕県内には、明治維新に関連する資料を所蔵している博物館・資料館がいくつもあります。今回は山口県立山口博物館についてご紹介しましたが、回廊だよりをご覧になって興味をもたれた方は、是非、実際に訪れていただければと思います。次号は来年三月発行の予定です。

維新史回廊だよりは、県内各市町の文化振興担当課や博物館・資料館、県政資料館に置いています。県内で開催される明治維新関連の企画展・イベント情報や維新史回廊だよりのバックナンバーは、維新史回廊ホームページ(<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/gyosei/bunka-s/shin/index.html>)へアクセスしてください。

皆さんのご意見、ご感想もお待ちしております。